

成田 滋賀県議会議員 セイリユウ



滋賀県議会活動
NewsReport Vol.50
2018年冬号



寒中見舞い申し上げます

本格的な人口減少社会を迎え、高齢社会が進んでいく中、東京大学大学院の研究や厚生労働省の調査結果により、滋賀県民の健康寿命や平均寿命に注目が集まっております。今後も健康寿命日本一の滋賀を目指していくため、予防を重視した健康づくりをさらに進め、歩いて暮らせるまちづくり、公共交通を軸としたまちづくりが重要であります。

滋賀県は琵琶湖を中心に山々に囲まれた豊かな自然環境、加えて、歴史・文化にあふれ、様々な目的をもって楽しめる地域であります。またスマートウェルネスシティ、ウォーカブルシティとして、欧州に近いコンパクトで公共交通を整備した地域づくりをおこないやす

い環境にあります。昨年、滋賀県の延べ観光入込客数が5千万人を超えました。ピワイチや日本遺産をはじめとする観光資源にさらに磨きをかけ、東京の情報発信拠点「ここ滋賀」を活用しながら、県内外を問わず多くの方に、滋賀で楽しんでもらい、元気がでる地域になるよう取り組みを進めていく必要があります。

2018年も、将来世代において、夢や希望が描ける社会を築く為、未来に対して責任を持って政治の役割を果たしていき、これまで以上に「子ども・若者」「環境」「健康」「安心安全」「滋賀の魅力」などへの県政への課題に果敢に挑戦をおこない、命をまもり、環境のはぐくめる滋賀を築いていきたいと思ひます。 成田 政隆

交通政策

公共交通を軸とした歩いてくらせるまちづくりのために、
攻めの姿勢で、公共交通の活性化を！

近年、交通政策は、観光面、環境面だけでなく、健康面にも大きく貢献するとされています。先般、「くらしの足全国フォーラム」に参加し、筑波大学大学院の久野教授の基調講演で、「**高齢社会で公共交通を入れない健康政策はあり得ない**。歩くことは連続性でなく、トータルが重要」と伺いました。これまで20分以上の連続した運動が必要とされていた理論は、「科学的根拠から歩くことは足し算と考えてよい」とされ、「細切れに歩いたとしても、一週間のうちで、歩ける日に多く歩いたとしても、有効である」との研究成果が報告されました。

運動不足を起因とする生活習慣病や認知症など高齢社会の課題が深刻化していく中で、介護や医療の課題を解消できる施策として、歩いてくらせるまちづくり、公共交通を軸としたまちづくりが注視されております。一方、今後、高齢社会が進み、免許返納者が増加する中で、公共交通がどれだけ残っているか懸念されております。滋賀県の人口減少がはじまりかけた今だからこそ、攻めの姿勢で将来に残せる公共交通の整備が必要でないかと考えます。

また既存路線の活性化も重要であります。湖西線に関しては、北陸新幹線に伴う並行在来線の課題はあるものの、現状の中でも、風対策やダイヤの改善等、更なる利便性向上の取り組みが必要であります。また私鉄の京阪電車や近江鉄道、三セクの信楽高原鉄道をはじめとする鉄道、さらには江若、京阪、近江など、様々なバス路線、タクシーの活用等、既存の公共交通の利活用を行っていく必要があります。そのためにも、交通系ICカードが県内どの公共交通機関に乗っても使用できることや、

バスロケーションシステムの拡充やわかりやすいバス路線図なども必要であります。加えて、京丹後市における上限200円バスによる乗降客数増加の取り組み、また本年から東京両国駅から房総半島へ、自転車をそのまま搭載できるサイクルラックを有する「B.B.BASE」が運行を始めましたが、自転車旅行のための列車の導入、外国人誘客に向けた仕掛けづくり等により、**既存路線にさらに人が乗ってもらえるような活性化策**も必要であるといえます。

また交通にかかわる財源の確保も重要な課題であります。フランスにおいては、「交通法典」において定められている交通権、市民の誰もが公共交通機関を使って都市にアクセスすることができる権利や市民が自由にアクセスできる都市空間の実現のため「交通税」というフランス独自の目的税を活用した持続可能な都市交通政策を展開されております。今後の取り組みのため、交通税や基金の造成など、**公共交通にかかわる財源の確保策が必要**であります。また**誰もが必要ときに必要な場所へ移動できる環境**を整え、交通弱者を意識した県民に交通を保障する権利、交通権を滋賀県に位置づけるとともに、行政と交通事業者、NPO、地域団体も含めた民間との役割を新たに構築し、公共交通を守っていく必要があります。滋賀県交通基本条例の策定に向けた取り組みも必要であるといえます。



がん対策

がんの予防やがん検診による早期発見と
医療・療養体制充実により、輝ける健やかな滋賀へ！

がんは生涯のうち約2人に1人ががんに罹患し、約3人に1人がなくなると推計され、本県においても、平成28年全死者の約3割ががんで亡くなられております。

現在、「滋賀県がん対策推進計画（第3期）」の策定に向け、議論が進められております。そこでは、「**県民一人ひとりが輝ける健やかな滋賀の実現**」～県民が、がんを知り、がんを予防し、がんになっても納得した医療・支援が切れ目なく受けられ、自分らしく暮らせる滋賀を目指して～」を基本理念とし、**①がんの予防、②がん医療の充実、③がんと共生、④これらを支える基盤の整備**の4つの分野の取組を進めようとしております。

特に、がんの予防について、早期発見が非常に重要と認識し、がん検診の受診率や精度管理の向上に、また、がんと共生について、がんと診断されたときからの緩和ケアを推進するとともに、教育や就労など、ライフステージに応じて、がん患者と家族への支援を進めることで、**がん患者が尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築**を目指すこととしております。

昨年11月定例会議にて行った一般質問の「がん対策について」では、特に症例数も少なく、対策が遅れている、若年世代に注視し、議論を行いました。国の第3期がん計画においても、「AYA世代（15歳から30歳前後の思春期・若年成人）」に発症するがんについては、その診療体制が定まっておらず、また、小児と成人領域の狭間で患者が適切な治療を受けられないおそれがある。」とされております。



マギーズ東京



がん議連主催「がん」と「向き合う」フォーラム



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 滋賀医科大学

そこで、小児がん拠点病院の設置に向けた検討やAYA世代がん患者の療養環境や教育、就労の支援、また経済的課題への課題について、先を見据えて取り組むべきとの提案を行いました。さらに、がん治療後に子どもを望むための妊孕性温存への支援の充実強化や骨髄ドナーの登録拡大やドナー休暇制度の導入に向けた提案も行いました。

がんの予防やがん検診による早期発見も重要ですが、加えて、医療・療養体制の充実により、一日でも早く、すべてのがん患者が元気に活躍されることを願うものです。

NPO法人淡海がいつぶりセンター



NPO法人淡海がいつぶりセンターは、すべてのがん患者、その家族、介護者、友人並びに一般市民が利用できる場所として、瀬田駅のそばに拠点を構えられ、「よりよく生きる」ための生活支援をし、地域社会の福祉の向上を図り、広く公益に貢献することを目的として、心理的社会的支援及び情報を提供する事業を行われています。

開所時間 平日 9:00～17:00
第1土曜日及び第3日曜日 9:00～17:00
休館日 第1・3金曜日・祝日・年末年始
住所 大津市大萱1丁目13-4 深田ビル1階
(JR瀬田駅徒歩2分)

成田セイリユウ プロフィール

チームしが 県議団所属

1974年8月15日 大津市生まれ
唐崎小、唐崎中、膳所高卒業
龍谷大学法学部政治学科卒業
同志社大学大学院総合政策科学研究科
博士前期課程 修了

関西広域連合議会 議員
文教・警察常任委員会 委員
文化・スポーツ対策特別委員会 委員
滋賀県議会 自転車議連 副会長
全国災害ボランティア議員連盟 理事

大津市消防団唐崎分団 班長
NPO法人おつ環境フォーラム 理事
滋賀県体操協会 副会長
宅地建物取引主任士
ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟 運営委員

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎1-25-17-601 e-mail mail@narinari.net URL http://www.narinari.net

成田セイリユウから、みなさまへのお願い

- 滋賀県・大津市に関するご質問、ご意見をお寄せください。
- 活動や報告についてのご意見、ご感想をお待ちしております。

- 定期的に県議会活動レポートを送付いたします。必要な方はご連絡ください。
- ボランティアスタッフを募集しております。

観光政策

比良比叡トレイルの推進を機に、滋賀の山の魅力を再発見。
道標の整備をはじめ、びわ湖一周トレイルの推進を！



「比良比叡トレイル」は、琵琶湖から湖西地域の山々を眺望した、南から北へつづく長い山稜、南方の峰は標高848mの大比叡、四明ヶ岳など、五峰をあわせた比叡山。さらに稜線は北へ途中峠から、権現山、蓬莱山、比良岳、堂満岳、最高峰1214mの武奈岳、そして最北の蛇谷ヶ峰までつづき、標高千メートル級の山々が連なる比良山地と、総距離約50キロのトレイルであります。2017年8月11日の山の日に、奥比叡ドライブウェイの峰道パーキングにて「比良比叡トレイル協議会」の設立記念式典が開かれました。

比良比叡トレイルの整備により、京都トレイルとの連携だけでなく、比叡山、比良山地から高島トレイル、余呉トレイル、さらには伊吹、鈴鹿山脈へとつなげることができ、**びわ湖一周トレイルへの期待**が高まります。加えて、この地域の山裾に点在する多様な自然と歴史、文化を再認識し、その魅力の発信から、県内外から多くの人に来訪してもらい、観光振興を通じた地域の活性化に向け、取り組みが進んでいくといえます。

そのためにも、滋賀のトレイルに関して、**統一された道標・ルートを、マップと連動**させることは、今後、びわ湖一周トレイルへの挑戦の意欲を促すとともに、QRコード等のICTの活用は、トレイル一周の達成の把握、認定証の発行等、誘客の促進にもつながるといえます。また同時に登山の安全性を担保するともいえず、滋賀の新たな魅力としての観光素材として寄与するのではないかと考え、2017年9月定例会議で、「びわ湖一周トレイルの整備について」を提案しました。

これに対し、三日月知事は「県として、本県の山々を巡るトレッキングの魅力をしっかり発信してまいりたいと考えており、**楽し**

みながら、安全にトレッキングを行っていただける環境の整備が重要であると認識。道標の統一化やマップの作製は、こうした環境整備に資する有力な手法であることから、地元の市町や登山道の管理者からご意見を伺い、連携しながら、どのように対応していくことが適切か研究していく」と答弁されました。今後の県としての施策の充実に期待したいと思います。



東海自然歩道、高島トレイル等、様々な道標がある中、京都トレイルのように統一化することにより、滋賀の山も一体感を持たせる必要があります。またルートや救助の際の位置情報をQRコードなどの利活用により推進すべきです。

これからの滋賀県立図書館のあり方について

2017年度の文教・警察常任委員会において、滋賀県立図書館の今後の方向性を定める「これからの滋賀県立図書館のあり方について」の議論が行われております。

図書館の普遍的な役割として、「全ての県民の「知りたい」「学びたい」に応える図書館」「自ら学び、考え、行動する県民の活動を支える「知の拠点」としての図書館」と位置づけ、県立図書館が目指す姿として、「県民は、どこに住んでいても、誰でも、図書館を通じて必要な資料・情報を受け取ることができます」「県民は、県立図書館から、専門的な資料・情報・レファレンスサービスを受け取ることができます」と位置付けております。

滋賀県立図書館が、県民にとっての知の拠点としてのさらに、レファレンスサービスをはじめとする様々な機能を利活用しやすくなるよう、議論を深めてまいりたいと思います。



文教・警察常任委員会
(萩図書館調査)

レファレンス専門員制度の導入、電子図書館の開設、読書手帳、雑誌スポンサー制度の導入など、全国に先駆け数々のサービスを展開されてます。



自殺対策

滋賀県自殺対策基本計画で、個人の問題から社会の問題へ。
だれ一人自殺に追い込まれることのない滋賀県に！

「個人の問題」と認識されがちであった自殺は広く「社会の問題」と認識され、自殺対策が総合的に推進されました。その結果、自殺者数は平成24年に3万人を割り込み、昨年、平成29年は21,897人となっております。滋賀県においても平成25年までは300人前後で推移してきておりましたが、昨年227人と年々、減少傾向にあります。

これまでも自殺予防も含め、本会議をはじめ、議論を行ってきましたが、2017年9月定例会議において、滋賀県自殺対策計画が策定される機にあためて、質問を行いました。

自殺に追い込まれる方は、一般的な分析では平均で4つの問題をかかえておられます。精神保健上の問題をはじめ、過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤立など様々な社会における「生きることの阻害要因」があり、これらを減らし、「生きることの促進要因」を増やすことを通じて、社会全体の自殺リスクを低下させる方向で、総合的に施策を推進していく必要があります。
各関係機関のネットワーク化をはじめ、連携の強化を行うと



もに、複数の問題に対して適切に対応が取れる仕組みづくりも必要であります。**「自殺の地域特性」を認識した中で、保健や医療、福祉、教育、労働といった各分野の連携、関連施策の連動が不可欠**であり、市町の傾向も分析し、適切な支援をおこなっていく必要があります。

だれ一人自殺に追い込まれることのない滋賀に、一人でも救える命は救っていける滋賀になるように、引き続き取り組んでいきたいと思ひます。



大津市民ヨシ刈り



大津市消防出初式



全国青年都道府県議会議員の会
(熊本研修会)



九州北部豪雨災害
災害ボランティア (朝倉市)

成田セイリユウ
活動アルバム



滋賀県議会自転車議連
(米原～長浜試走会)



関西府県議会日中友好団
(北京・天津訪問)



関西広域連合協議会
若者世代による意見交換会 (鳥取市)



文教・警察常任委員会
滋賀県警 鑑識課